

同窓生
シリーズ

62



22回生

塩崎恭久
しおざきやすひさ

◆プロフィール

内閣官房長官・拉致問題担当大臣
衆議院議員(愛媛1区)

S50年東京大学教養学部
教養学科アメリカ科卒業
同年日本銀行入行。S57年
ハーバード大学行政学
大学院修了(行政学修士)。
H5年衆議院議員初当選
H7年参議院議員当選。
H12年以降衆議院議員連
続当選(現在衆院4回、参
院1回)この間、大蔵政務
次官、衆議院法務委員長、
外務副大臣等を歴任

新宿高校に入学したきっかけ

受験は学校群になる前の最後の年でした。学区の中では新宿と戸山両校が双壁でしたが、姉が戸山に通っていてとても優秀だったから、比較されるのは嫌だと思つて新宿高校を選びました。

入学して初めに感じたのは、バリバリの進学校で、勉強がすごく大変だということでした。当時は一学年400人、3/4が男子、1/4が女子の割合でしたが、試験の度、学科毎に、上位優秀者30人くらいの名前が廊下に張り出されるので、そこに入るために一生懸命頑張っていました。

部活は社会科研究会、「社研」というところに入っていたんですが、その当時学校の真ん前に木賃宿があつて、いろんな人が出入りし、ときにはそれこそ犯罪者が逃げ込んたりするなど、社会の縮図というか、実に不思議なところでした。自分なりに問題意識を持つて、四谷警察署だったかに行つて、その周辺の実態を調査して文化祭で発表したりしました。新宿の雰囲気も、高校生が社会的なことに関心を持つようなまちでした。

その後、二年の一学期を終えてから米国内に一年間留学しました。学校は一年休学したので、戻ってきたときは二年の二学期から始めることになりました。そこで、世界的に著名な音楽家で、小・中も同じだった一年下の坂本龍一や、カメラマンでライターの馬場憲治などと一緒のクラスになって、親交を深めたんです。

―多感で豊かな高校時代

留学から帰つて来てすぐ、九月くらいに生徒会の会長選挙がありました。自分は、米国で自由な教育や、先生と生徒の緊密な信頼関係を見てきたので、戻つてきて日本にいたときは感じなかつた、日本の型にはめようとする教育が目につきました。そこで新宿高校でも自由な校風を作りたいと、生徒会長に立候補しました。同級生の二年生に加え、前の同級生の三年生も応援してくれたおかげで、生徒会長に選出して頂きました。生徒会長になつてからは、当時はまだ学生服・制帽着用があたりまえでしたが、みんなに呼びかけ、議論をして制帽を廃止しました。また、先生とも議論しあえる緊密な信頼関係を目指して活動しました。

ちょうど東大闘争がピークだった時で、世界的にも学生運動が大変盛り上がりつついて、高校生も問題意識を持つような雰囲気があったりまえであった時代です。二年

生の一月に東大の安田講堂事件がありました。三年になってからは生徒会長は退きましたが、とても多感な時期でしたから、生徒会の仲間がよく我が家が集まつて、夜遅くまで教育のことや生きる目的は何かみたいなことなどいろいろな議論をしました。そんな中で、新宿高校でも、生徒の評価制度をどうすべかという問題が提起され、自分は、一方的な決定ではなくて話し合いが必要だということを訴えて、校長と直談判をしました。しかし、母があかないため、生徒に呼びかけて一週間ストライキを起こしたりもしました。今思うと、自分の問題意識に対して全速力で正面から向かつていったんですね。

同時に学生生活も楽しんでいました。これも多感な時期だから、新宿のジャズ喫茶で坂本と語り合つたり、早弁して映画を観に行つたり、先生とも、家にまで行つて話し合つたり、いろんな体験をしました。社会的にも不安定な時代の中で、高校生という多感な時期を迎え、友達とはある意味でとても深い繋がりを持てたし、大人になるための人生を見つめる、人生の基礎を作る作業をしましたね。そんな機会を与えてくれたのが高校時代でした。

―在校生に向けての言葉をお願いします

自分が今でも頼りてるのは、高校時代の友人達です。後援会も、同級生が中心になって一生懸命応援してくれています。彼らとは、高校時代を通じて、悩んだり真剣に議論したり、損得抜きでつきあえる信頼関係を作ることができました。こうした関係の友達を、ずっと一生大切にしていけることが人生ではとても大事なことです。

―PTAに向けての言葉をお願いします

高校時代は、多感な時期だから、ちょっととしたことで両方向に大きくぶれてしまふ。だから、周囲はきちんと見てあげて必要はあるけれど、大人に脱皮する大事な時期だけに、干渉しすぎると逆方向に行つてしまふ心配もある。離れてはいても、遠くから温かく良く見守る、という姿勢が大切だと思います。

大変な政局の中でとてもお忙しいのに、新宿高校のためなら、休日に時間を作ってくださいました。とても濃密な高校時代を過ごされていきます。このように真摯で一生懸命な方なら、日本の政治を任せて大丈夫、と思えました。どうも本当にありがとうございます。